

平成23年度

授業計画 (シラバス)

武蔵野短期大学

幼児教育学科

基礎科目：307ページ～323ページ

専門科目：324ページ～386ページ

シラバスの活用方法と見方

すべての科目について記載していますので、履修の際に活用して下さい。

授業の到達目標及びテーマ

- ・その科目では学生の皆さんにどこまで理解を求めるのか。その到達目標等が記載されています。授業レベルの目安になるものです。

授業概要

- ・どんな内容を扱う授業なのかが記載されています。

授業計画

- ・授業概要を具体的にそれぞれの授業でどう扱うのか、より具体的な計画が記載されています。事前準備とは授業に臨む学生の皆さんに求めるものです。

オフィス・デイ

- ・直接、教科担任の先生と相談したいことがあれば、オフィス・デイを利用して下さい。事前に申し出るのがよいかもしれません。教員は出勤曜日や時間帯が異なります。職名に兼任講師と記載されている教員は出向日が1日の場合もありますので、注意してください。(出勤日は教務部前に掲示してあります)

評価基準・評価方法

- ・成績評価や単位取得に重要なところです。どのような基準で成績評価されるかの重要な記載事項です。出席については3分の2以上が条件です。3分の2以上の出席は最低条件です。(出席とは対面式の授業のことです)

教科書

- ・指定されているものは、大学の購買部で販売致します。

最初の授業と試験前の授業に注意を！

- ・どの授業も最初の授業では、各担当教員により担当科目に関する方針が表明されますので、最初の1、2回を欠席しないようにして下さい。
- ・授業の後半ではレポート課題や試験に関する範囲の発表などがありますので、要注意です。
- ・まずは授業にしっかりと出て、授業の内容を理解し、自分を高めて下さい。

武蔵野短期大学 シラバス

基礎科目

人 文
社 会
自 然
外 国 語
保 健 体 育

専門科目

教科専門科目
教職専門科目
福祉専門科目

科目名	文 学	職 名	兼任講師
		教 員 名	佐々木 隆
授業形態	講義	単位数(期間)	2単位(1年前期)
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭及び保育士養成の教養として「文学」を通して子どもの理解を深めることを到達目標とし、平成23年度のテーマは児童文学及びファンタジーを取り上げる。 		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「児童文学・ファンタジー」を考えるにあたり、まず重要なことは「子どもとは何か」「児童とは何か」「文学とは何か」という大前提を理解することである。さらに、「昔話・童話」と「児童文学」の関係、さらには、「ファンタジーとは何か」などを探り、「文学作品とアニメ化、映画化」についても触れ、マンガやアニメをどうとらえていくかも考察していきたい。特に児童文学の宝庫である英米文学を中心に上げる予定である。 		
授業計画 (オフィス・デイ)	<p>事前準備：童話集や児童文学全集などからできるだけ多くの作品を読んでもらいたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「こども」とは何か、「児童」とは何か 2 「絵本：こどものための本」とは何か 3 童話と児童文学、童話とファンタジーについて 4 イソップ物語、グリム童話、アンデルセン童話 5 芸術童話 オスカー・ワイルドの童話 6 児童文学と教育について 7 明治時代及び大正時代における日本の児童文学 8 英米文学児童文学史 9 科学と文学の関係 10 児童福祉から見た児童文学 11 最近のファンタジー文学の特徴 12 アニメ、映画、ドラマ、演劇になった児童文学 13 児童文学の社会的背景 14 マンガやアニメをどう考えていくか 15 まとめ 幼児教育者・保育者として児童文学をどう考えるか (オフィス・デイ：授業時間のある曜日。時間については要相談) 		
評価基準 評価方法	<p>出席は3分の2以上を出席することを前提とし、授業中の活動・提出物等を50%、試験50%、内60%以上の評価を受けた者に単位を認定する。</p>		
教科書	<p>教科書はプリントを配付し使用する。 HP「佐々木隆研究室」(http://ssk.econfn.com/)にて教材は公開すると同時に配布する。連絡先 ssk2000takashi@yahoo.co.jp 参考書 佐々木隆「こどものための英米文学」(武蔵野学院大学佐々木隆研究室)</p>		

科目名	音 楽	職 名	教 授
		教 員 名	浅 水 順 一
授業形態	講義	単位数(期間)	2単位(1年後期)
授業の到達目標 及びテーマ 授業概要	<p>以下の3本柱を中心にして授業を行い、教養を深めることを到達目標とします。</p> <p>1) 音符をすぐに読めるようになりましょう。それには毎日欠かさず訓練する事に尽きます。毎回授業の初めに10分間訓練します。就職試験にも役立ちますよ。</p> <p>2) TVのCMで、ある車のメーカーがクラシック音楽をBGMに使っています。又、イギリスのコーラスグループ等はJ. S. バッハの曲をジャズ風に歌って人気があります。それらを原曲と聴き比べてみましょう。</p> <p>3) 癒しの音楽の作曲家・モーツァルトは35年の短い生涯で22ものオペラを作曲しました。DVDを鑑賞しながら教養を深めてみませんか。</p>		
授業計画 (オフィス・デイ)	<p>事前準備</p> <p>1. 音符を読む訓練。(10分間) バッハの原曲とジャズ風演奏を比較鑑賞 他。</p> <p>2. 音符を読む訓練。(10分間) CMの中のヘンデル(1685~1759)「水上の音楽」、モーツァルト(1756~1791)「ディヴェルティメント」「メヌエット」、1他。</p> <p>3. 音符を読む訓練。(10分間) CMの中のベルリオーズ(1803~1869)「幻想交響曲」第2楽章「舞踏会」他。</p> <p>4. 音符を読む訓練。(10分間) CMの中のブラームス(1833~1897)「交響曲第1番」他。</p> <p>5. 音符を読む訓練。(10分間) ドビュッシー(1862~1918) CMの中のドビュッシー(1862~1918)「交響詩「海」第1曲「海上の夜明けから真昼まで」より 他。</p> <p>6. 音符を読む訓練。(10分間) モーツァルトのオペラ「フィガロの結婚 I」の鑑賞。</p> <p>7. 音符を読む訓練。(10分間) 「フィガロの結婚 II」の鑑賞。</p> <p>8. 音符を読む訓練。(10分間) 「コシ・ファン・トゥッチ I」の鑑賞。</p> <p>9. 音符を読む訓練。(10分間) 「コシ・ファン・トゥッチ II」の鑑賞。</p> <p>10. 音符を読む訓練。(10分間) 「後宮よりの逃走 I」の鑑賞。</p> <p>11. 音符を読む訓練。(10分間) 「後宮よりの逃走 II」の鑑賞。</p> <p>12. 音符を読む訓練。(10分間) 「魔笛 I」の鑑賞。</p> <p>13. 音符を読む訓練。(10分間) 「魔笛 II」の鑑賞。</p> <p>14. 音符を読む訓練。(10分間) 「魔笛 III」の鑑賞。</p> <p>15. 音符を読む訓練。(10分間) モーツァルト最後の作品「レクイエム」の鑑賞。</p> <p>(オフィス・デイ：木曜日。時間については要相談)</p>		
評価基準 評価方法	成績は授業中の活動50%、随時提出してもらったレポートにより50%とします。		
教科書	適宜プリントを配布		

科目名	美術	職名	専任講師
		教員名	小山一馬
授業形態	講義	単位数(期間)	2単位(1年前期)
授業の到達目標 及びテーマ 授業概要	<p>・授業の到達目標は、美術作品が発するメッセージを理解する事にあり、テーマとして、主に西洋美術作品を取り上げる</p> <p>・名画、名作と言われる作品はなぜそう言われるのか、ただ漠然とした見方で教科書に掲載されている作品を名作と認識する傾向がないでしょうか。本講座は作品及び作家の生い立ち、裏話し、時代の流れ等をビデオ・スライドを交えながら紹介し、芸術が訴えかけてくるものとは何か、作品を通して語りかけてくるメッセージについて作者の立場に立って、考えていきたい。</p> <p>作品を鑑賞する観点を知ることにより、美術への興味を持ち、作品の触れる喜びを味わわせたい。また、作品鑑賞とともに制作を行い、その過程から体験的に作家の技法やねらい等を学習する。</p>		
授業計画 (オフィス・デイ)	<p>事前準備：インターネット等を通して、下記の事柄をチェックしておく事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 西洋美術史概略 石器時代から現代まで 2 ギリシャ美術・彫刻について 3 ルネッサンス絵画 (1) ボッティチェルリ 4 ルネッサンス絵画 (2) レオナルド・ダ・ビンチ、ラファエロ 5 ルネッサンス彫刻 ミケランジェロ 6 印象派の美術 (1) ゴッホ、ゴーギャン 7 印象派の美術 (2) マネ、モネ 8 印象派の美術 (3) ルノワール、シスレー 9 日本美術史概略 縄文時代から現代まで 10 浮世絵・葛飾北斎 11 名画の技法を用いたコラージュの作成 12 現代美術・野外彫刻について 13 現代美術・絵画・デザインについて 14 自画像について 15 デッサンについて <p>(オフィス・デイ：水曜日。時間については要相談。事前にお知らせください)</p>		
評価基準 評価方法	<p>出席は3分の2以上を原則。授業中の活動50%、レポート及び提出物等50%、内60%以上の評価を受けた者に単位を認定する。なお、出席不良者及び試験結果不良者に追レポートを課し、総合判断に加えることがある。</p>		
教科書	<p>教材プリントを講義中に配布</p>		

科目名	歴史学	職名	兼任講師
		教員名	久保田 哲
授業形態	講義	単位数(期間)	2単位(1年後期)
授業の到達目標 及びテーマ 授業概要	<p>・歴史は多面的なものである。世界史上類を見ないほどの成功をおさめた日本の近代化について、多様な視点から考察していく。</p> <p>・自らの話ができなければ、友人の話をしっかりと受け止めて話すことができないように、自国の歴史を知らなければ他国の人々と対話することは難しい。本講義は、「近代化の優等生」から「東アジアの敗戦国」となり、復興していく日本の歩みを通史的に理解した上で、官僚制、外交、社会史、人物史、地方史といったさまざまなアプローチを通して、日本の近代史を立体的に理解していく。また、個別のテーマの研究手法・地方の歴史・資料の会説などについても触れる予定である。</p>		
授業計画 (オフィス・デイ)	<p>事前準備：配布プリントを事前によく読んでおくこと</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 歴史学とは何か 2 開国・維新 3 明治国家 4 政党から軍部へ 5 戦争・占領・講和 6 官僚の生態学 7 日本の内と外 8 学歴貴族の栄光と挫折 9 メディアと情報 10 技術が変えた社会生活 11 伝記研究① 12 伝記研究② 13 伝記研究③ 14 地方史 15 歴史から学ぶこと <p>(オフィス・デイ：月曜日。ただし、事前にお知らせ下さい)</p>		
評価基準 評価方法	<p>出席は3分の2以上を原則。授業中の活動及び提出物(40%)、レポート(60%)、内60%以上の評価を受けた者に単位を認定する。</p>		
教科書	<p>教科書は使用せず、教材プリントを配布するほか、適宜参考書を紹介します。</p>		

科目名	法学(日本国憲法を含む)	職名	兼任講師
		教員名	神野 潔
授業形態	講義	単位数(期間)	2単位(1年前半)
授業の到達目標 及びテーマ 授業概要	<p>・判例や通説による憲法解釈を紹介するだけでなく、日本国憲法自体の持つ問題点を指摘し、わが国にとってのあるべき憲法の姿を考える。</p> <p>・主な授業項目は、日本国憲法への視座、天皇制、戦争の放棄、憲法改正、人権の歴史と思想、自由と権利、代表議会制、司法制度等々である。</p>		
授業計画 (オフィス・デイ)	<p>事前準備：時事ニュースに関心を持つこと</p> <p>○はじめに</p> <p>1 憲法を学ぶ意義</p> <p>○歴史的視点から</p> <p>2 明治憲法とその時代</p> <p>3 前文を読み直す</p> <p>4 平和主義の理想と現実</p> <p>5 砂川事件と憲法改正論議</p> <p>6 天皇制に関する諸問題</p> <p>○判例を読む</p> <p>7 幸福追求権と公共の福祉</p> <p>8 法の下での平等とは何か</p> <p>9 信教の自由と政教分離</p> <p>10 表現の自由と「宴のあと」</p> <p>11 教育を受ける権利と家永裁判</p> <p>○トピック</p> <p>12 生存権、労働基本権</p> <p>13 国務請求権、参政権</p> <p>14 三権分立と司法制度改革</p> <p>○総括</p> <p>15 憲法とは何か</p> <p>(オフィス・デイ：火曜日 時間については、事前に相談に応じます)</p>		
評価基準 評価方法	<p>出席は3分の2以上を原則とする。授業中の活動30%、定期試験70%+授業内レポート、うち60%以上の評価を受けた者の単位を認定する。</p>		
教科書	<p>授業内でプリントを配布します。</p>		

科目名	政治学	職名	兼任講師
		教員名	久保田 哲
授業形態	講義	単位数(期間)	2単位(1年前期)
授業の到達目標 及びテーマ 授業概要	<p>現代政治学の基本を学びながら、今日の日本政治の課題を認識し、自ら考えられるようになることを目指します。</p> <p>二十歳になれば、選挙権を持ちます。そして選挙で選ばれた代表者が、国の進路を決めていく。国会、内閣、政党、そして官僚、マスコミ。国の行方は誰によって、どう決められているのでしょうか。私たちが守らなければならない法律や、私たちが納める税金の使い道を決めている政治を学んでいくうちに、それが他人事ではないということが分かってくることでしょう。</p> <p>授業は講義形態を基本としながら、発表やディベートも行いつつ進めていきたいと考えています。また、公務員試験も見据えながら、授業を進めていく予定です。</p>		
授業計画 (オフィス・デイ)	<p>事前準備</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 政治学とは何か 2 政治制度 3 政治思想・イデオロギー 4 民主主義 5 国家 6 戦争と平和 7 国会・議会政治 8 官僚制 9 地方自治 10 世論とマスメディア 11 選挙・投票行動 12 政党及び政党制 13 利益集団・圧力団体 14 国際政治 15 まとめ <p>(オフィス・デイ：月曜日。ただし、事前にお知らせ下さい。)</p>		
評価基準 評価方法	<p>出席は3分の2以上を原則。授業中の活動及び提出物(40%)、レポート(60%)、内60%以上の評価を受けた者に単位を認定する。</p>		
教科書	<p>教科書は使用せず、教材プリントを配布するほか、適宜参考書を紹介します。</p>		

※平成23年2年のみ適用

科目名	家族関係論	職名	兼任講師
		教員名	大久保 治 男
授業形態	講義	単位数(期間)	2単位(2年前期)
授業の到達目標及びテーマ 授業概要	<p>・「家族関係論」の講義では現代社会の特質を背景にふまえつつ家族の機能や意義を考え、「よりよき家庭の建設」を目標に実践的・現実的に論述し、理解させて行きます。</p> <p>・「家族関係」はインフォーマルな人間関係で、最も基本的な重要な生活単位であり子孫繁栄や情緒安定一憩いの愛の巣です。「核家族」から「家庭崩壊」などと云われている今日、家庭の重要性が再認識され、社会の一構成員としても各人の人格形成が基本的には各家庭に求められるのです。アップツーデートの家庭にまつわる諸問題も受講生と共に分析し、視聴覚教材も多く使用しディベートも行って楽しく、各人にも役立つ家族関係の講義を進行して行きたいと思っています。</p>		
授業計画 (オフィス・デイ)	<p>事前準備：最近の家庭にまつわる諸問題を新聞等でチェックしておくこと</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 総論1 家庭の概念 家庭の機能 2 総論2 家庭の分類 家族周期 3 総論3 家庭、主として婚姻の歴史 4 総論4 家族、主として婚姻の風習・伝統 5 婚姻1 結婚へのステップ 婚約 6 婚姻2 婚姻の成立要件 効果 7 婚姻3 円満な夫婦生活、家族計画 国際結婚 嫁と姑 DV 8 婚姻4 離婚、形式 夫婦関係崩壊の原因 共働き 夫婦別姓 9 親子関係1 法的関係よりの親子、現実的側面よりの親子 10 親子関係2 養子、一人っ子、少子化 扶養 家庭内暴力 人工授精子 11 相続1 相続人 相続分 遺留分 寄与分 12 相続2 遺言 祭祀承継 13 老人問題 老人福祉 老人介護 14 地域、隣人と家族関係とのコミュニケーション 15 総括 アップツーデートで特にクローズアップされた大きな家族関係にまつわるテーマ等 <p>(オフィス・デイ：毎月第1か第3の金曜日。時間は事前に調整)</p>		
評価基準 評価方法	<p>平常時のディベートに参加30% (グループ別討論を予定)、出席率40%、レポート、期末の簡単な小テスト30%等総合的に評価</p>		
教科書	<p>(教科書) 無し (参考書) 大久保治男著「家族関係」 芦書房よりのコピーを渡す</p>		

科目名	民俗学概論 (平成22年度入学生)	職名	兼任講師
	日本文化論 (平成23年度入学生)	教員名	林 猛
授業形態	講義	単位数(期間)	2単位(1年前期)
授業の到達目標 及びテーマ	<p>・民俗学とは、日本人の生活に宿る伝承的な習俗を研究対象として、民俗の変遷、その原質、原型を探る学問と考えられています。文献を中心とした歴史学とは異なり、先祖から伝承されてきた習俗等を通して、日本人の歴史と心性とを追求する民俗学を理解することが到達目標でありテーマです。</p>		
授業概要	<p>・この講座では、民俗学の研究対象を明らかにしながら、民俗学を学的体系に確立した柳田国男について学んでみることにします。さらには、日常生活に隠されている民俗的事象についてVTRや新聞記事等を通して考えてみる計画です。</p>		
授業計画 (オフィス・デイ)	<p>事前準備</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 民俗学のおこり 2 柳田国男の民俗学1 3 柳田国男の民俗学2 4 柳田国男の民俗学3 5 柳田国男の民俗学4 6 民俗学の研究方法 7 民俗調査の方法 8 常民の概念 9 日常生活の民俗1 10 日常生活の民俗2 11 日常生活の民俗3 12 日常生活の民俗4 13 人生儀礼の民俗1 14 人生儀礼の民俗2 15 人生儀礼の民俗3 <p>(オフィス・デイ：木曜日。時間については要相談。事前に連絡して下さい。)</p>		
評価基準 評価方法	<p>3分の2以上の出席を原則。小テスト・レポート100%、内60%以上の評価を受けた者に単位を認定します。なお、出席不良者及び小テスト、レポート結果不良者に追レポートを課し、総合判断を加えることがあります。</p>		
教科書	<p>(参考書)『柳田国男全集』柳田国男著、『民俗学への招待』宮田登著</p>		

科目名	経済学	職名	兼任講師
		教員名	木川 裕
授業形態	講義	単位数(期間)	2単位(1年後期)
授業の到達目標 及びテーマ 授業概要	<p>・授業の到達目標は「経済学」に関する諸問題を把握し、解決のための基礎的な理解を深めることにある。</p> <p>・スタンダードなマクロ・ミクロ経済学、ならびに国際経済学について学習し、現実の経済を見る上で基礎力を養成することを目的とする。マクロ経済学として、国民経済計算、有効需要、経済政策等。ミクロ経済学としては、消費と生産、独占の理論、市場の失敗等を取り上げる。</p>		
授業計画 (オフィス・デイ)	<p>事前準備新聞・インターネット等で経済に関する問題をチェックしておくこと</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 バブルと日本経済 2 経済観察の基礎 3 国民経済計算 4 有効需要理論 5 資産選択と貨幣理論 6 財政政策の基礎 7 金融政策の基礎 8 景気循環 9 所得の分配と経済成長 10 消費者行動 11 生産者行動 12 独占の理論 13 市場の失敗 14 外国為替と貿易 15 貧困と平等・不平等 <p>(オフィス・デイ：水曜日。時間については要相談。事前にお知らせ下さい。)</p>		
評価基準 評価方法	<p>3分の2以上の出席を原則。授業中の活動(40%)及び小テスト(20%)、定期試験(40%)、うち60%以上の評価を受けた者に単位を認定する。(総合的に評価する)</p>		
教科書	<p>教材プリントを講義中に配布。</p>		

科目名	環境科学	職名	兼任講師
		教員名	福田直
授業形態	講義	単位数(期間)	2単位(1年後期)
授業の到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境破壊や汚染の現状を知り、地球システムのしくみを理解するとともに地球環境を予測し、自然と人間の共生・調和に向けて何をすべきか幅広く総合的に思考し、構想することができる能力の育成と行動していく態度を身につけることを目標とする。 		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境の成り立ちとしくみ、自然生態系のシステムを理解し、環境と人間活動との関係を学習する。そして、様々な地球環境問題の現状と課題を知るとともにその解決方法について知識を総合して考察していきたい。 		
授業計画 (オフィス・デイ)	<p>事前準備：環境に関するニュースに注意すること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地球の歴史—地球誕生と生物進化— 2 地球システム—その成り立ちとしくみ— 3 人間活動と自然生態系 4 大気環境・水環境・土壌環境 5 大気汚染と水質汚濁、土壌汚染 6 オゾン層破壊、酸性雨 7 地球温暖化 8 熱帯林喪失、砂漠化 9 野生生物の絶滅危機と生物多様性 10 気象現象とその変動 11 資源・エネルギー問題 12 人口・食糧問題 13 ゴミ・廃棄物問題 14 持続可能な開発と地球環境の保全 15 地球環境問題の解決に向けて <p>(オフィス・デイ：月曜日。時間要相談)</p>		
評価基準 評価方法	<p>出席 2/3以上、レポート及び提出物50%以上の学生で60%以上の評価を得た場合に単位を認定する。出席不足以外で実習・病気・事故等止むを得ない事情で上記要件を満たせなかった場合のみ追レポートを課し判断する。なお課題と関係が無い内容が記述されたレポート及び検証する事なくインターネット情報をコピーしたレポートは大幅に減点される。</p>		
教科書	<p>授業者の配布する資料による。参考書等は適宜授業の中で紹介する。</p>		

(平成22年入学者のみ適用)

科目名	生化学概論	職名	兼任講師
		教員名	川西幸子
授業形態	講義	単位数(期間)	2単位(2年前期)
授業の到達目標及びテーマ	<p>・人体を構成する物質と機能の基本的知識を理解し、特に母親・保育者として必要な健康管理に役立つことを目標とし、「現代人そして次世代への健康問題」をテーマとする。</p>		
授業概要	<p>・現在、生化学の分野は遺伝子レベルまで広がり、ヒト遺伝子の解説が完了したとしても、複雑な生命の仕組みについての説明は開始された段階である。病気や寿命に関わる遺伝子も明らかにされつつある。この生命活動の仕組みも、基本的に、生体を構成する物質の化学、機能、代謝などに基づく知識から説明されてきたものである。先ず、人体の構造について概略を理解し、生化学の基本的知識を学び、解き明かされた生命の仕組みの一端を理解する、更に関係する病気と食の安全問題も考察していきたい。</p>		
授業計画 (オフィス・デイ)	<p>事前準備</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人体の構成と機能の概観 2 生命の基本単位—細胞の構成と機能 3 蛋白質の構造と機能、BSE問題 4 糖質の構造と機能、オリゴ糖と腸内細菌 5 脂質の構造と機能、トランス脂肪酸、ジアシルグリセロール問題 6 核酸の構造と機能 7 酵素の構造と機能 8 ビタミンの種類と機能 9 水・無機質の機能 10 栄養素の消化と吸収 11 生体の恒常性システム 12 エネルギーの消費と供給 13 生体の防御システム(免疫)とアレルギー 14 母体と胎児の発達 15 病態生化学 <p>(オフィス・デイ：水曜日。時間については要相談。事前にお知らせください)</p>		
評価基準 評価方法	<p>出席40% (3分の2以上を原則)、レポート40%、小テスト、提出物等20%、内60%以上の評価を受けた者に単位を認定する。なお、出席不良者およびレポート内容の結果不良者に追レポートを課し、総合判断に加えることがある。</p>		
教科書	<p>(教科書) 教材プリントを講義中に配付 (参考書) 『イラスト生化学入門〈栄養素の旅〉』 相原英孝 他著 (東京教学社)</p>		

科目名	自然科学概論	職名	兼任講師
		教員名	福田直
授業形態	講義	単位数(期間)	2単位(2年後期)
授業の到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・宇宙、地球・人類の歴史、人間活動と自然、自然のしくみ、科学技術の発展と地球環境との関わりなどの学習を通して、地球の一員としてどう思考し、行動していくべきかを考えていくことを目標とする。 		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・自然科学は自然界で生じる諸現象を研究し、自然の成り立ちやしくみを解明する学問である。近年、自然科学の進歩は著しく、私たちの生活はもちろん、自然環境そのものにさえ大きな影響を及ぼし、変化させる力となっている。本講義では自然科学や科学技術の発展の歴史や進歩を知るとともに現在の地球環境の問題点や課題を探り、今後の科学との関わりについて考察していきたい。 		
授業計画 (オフィス・デイ)	<p>事前準備</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 宇宙の誕生、太陽系及び地球の誕生 2 生命の誕生と水中進化、原核生物・真核生物・好気性生物の出現と酸素蓄積 3 陸上生物の出現、森林形成、恐竜の絶滅、哺乳類の繁栄と人類の出現 4 古代文明と環境 5 産業革命と工業発展・経済成長 6 人口増加と地球資源・エネルギー消費増大 7 生態系における物質環境 8 科学技術史(農業・工業・医療など) 9 今日の最先端科学技術 10 科学技術の功罪1(産業発展と環境問題) 11 科学技術の功罪2(様々な地球環境問題) 12 資源・化石燃料の枯渇、代替エネルギーの開発 13 遺伝子組み換えとバイオ燃料 14 生活と自然科学(生命・環境・健康) 15 21世紀の自然科学と私たちが出来ること <p>(オフィス・デイ：月曜日。事前にお知らせください)</p>		
評価基準 評価方法	<p>出席2/3以上、レポート及び提出物50%以上の学生で60%以上の評価を得た場合に単位を認定する。出席不足以外で実習による欠席及び病気・事故等止むを得ない事情で上記要件を満たせなかった場合のみ追レポートを課し判断する。なお課題と関係が無い内容が記述されたレポート及び検証せずにインターネット情報をコピーしたレポートは大幅に減点される。</p>		
教科書	<p>授業者の配布する資料による、参考書等は適宜授業の中で紹介する。</p>		

科目名	情報処理入門	職名	専任講師
		教員名	八木浩雄
授業形態	講義	単位数(期間)	2単位(1年前期)
授業の到達目標 及びテーマ 授業概要	<p>・今日の社会は「情報社会」と称されるように、様々なメディアが「情報」を提供し、それに対しそれぞれの人が情報活用能力を身に付け高めることが求められている。本講義では、コンピュータの利用を中心に「情報活用」について考えていく。したがって、身の廻りにある「情報」に対しての意識を持ちながら受講して欲しい。</p> <p>・基本的には、文書作成ソフト・表計算ソフトの活用と、Webの活用、そしてその上で必要となる情報モラルについて理解を深めていくことを目指す。</p>		
授業計画 (オフィス・デイ)	<p>事前準備：キーボード配列とWindows環境下での文字入力は前提知識とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、コンピュータ操作と学内環境の確認 2. Webの活用とE-mailの利用 3. Webの活用とE-mailの利用（添付ファイルとコピー&ペースト） 4. 文書作成ソフトの練習（入力操作） 5. 文書作成ソフトの練習（編集操作 wordの基礎） 6. 文書作成ソフトの練習（編集操作 wordの操作練習） 7. 文書作成ソフトの練習（編集操作 wordを使いこなす） 8. 文書作成ソフトの練習（応用） 9. 表計算ソフトの練習（入力操作） 10. 表計算ソフトの練習（関数機能 excelの基礎） 11. 表計算ソフトの練習（関数機能 excelの操作練習） 12. 表計算ソフトの練習（関数機能 excelを使いこなす） 13. 表計算ソフトの練習（応用） 14. ソフト間の連携 15. 総括 <p>(オフィス・デイ：火曜日。面談時間については事前相談のこと。)</p>		
評価基準 評価方法	<p>出席は3分の2以上で評価対象と致します。評価は、コンピュータ活用を目的とした授業ですので、授業中の活動50%、複数出題する課題作成・提出50%のうち60%以上単位認定を致します。</p>		
教科書	<p>必要に応じて授業中に指示します。それとは別に保存媒体の購入をお願いすることがあります。</p>		

科目名	英会話 I	職名	兼任講師
		教員名	荒木洋育
授業形態	演習	単位数(期間)	2単位(1年前期)
授業の到達目標 及びテーマ 授業概要	<p>・授業のテーマは英会話の基本表現の習得であり、適切な表現、ペースにより会話へ積極的に参加できることを到達目標とする。</p> <p>・アウトプットの機会を多く設け、基礎的な英会話の力を伸ばしていくことを目標とする。パターンプラクティスを通しての会話表現の習得から自分で考え英文を作成し表現できる力まで身につけられるような土台作りをしていく。</p> <p>扱う内容は、学生が興味関心を持ちやすい身近なものを、わかりやすい英会話教材を用いて実施する。更には、実際に海外旅行に行った時、外国人に自分や日本を紹介するのに役立つ表現なども取り入れ、楽しみながら行う。</p>		
授業計画 (オフィス・デイ)	<p>事前準備：以前学校で使用した教科書等をチェックしておくこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本人が英会話を学ぶにあたっての心構え。 2 英語で何かを頼んでみよう。－① 命令文以外の方法で 3 英語で何かを頼んでみよう。－② より丁寧な頼み方と応答の形 4 英語で何かを提案してみよう。－① 基本フレーズ 5 英語で何かを提案してみよう。－② 疑問文を使って 6 英語で自分の気持ちを実現しよう。 7 英語で許可を求めてみよう。 8 英語で予定を言ってみよう。 9 英語で具体的な質問をしてみよう。 10 英語で自己紹介してみよう。 11 「出会い」でのやりとり。 12 「電話」でのやりとり。 13 「買い物」でのやりとり。 14 「食事」でのやりとり。 15 「宿泊」でのやりとり。 <p>(オフィス・デイ：月曜日。時間は要相談。事前にお知らせください)</p>		
評価基準 評価方法	<p>(出席は3分の2以上を原則)。提出物等30%、試験40%、内60%以上の評価を受けた者に単位を認定する。定期試験を実施するので、必ず受験のこと。</p>		
教科書	<p>教材プリントを講義中に配布する。</p>		

科目名	英会話Ⅱ	職名	兼任講師
		教員名	Helen Northeast
授業形態	演習	単位数(期間)	2単位(2年後期)
授業の到達目標 及びテーマ 授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ This course is designed to increase students' abilities and skills for communicating in English, with special emphasis on communicative speaking and listening comprehension. ・ This course is designed to strengthen fluency and understanding in English, as well as develop listening comprehension. Emphasis is placed on interactive conversation and listening skills in a variety of areas. Contemporary situations and language are relevant to young adults, with multiple areas of interest designed to appeal to students. Students must take an active part in pair work conversation exercises. 		
授業計画 (オフィス・デイ)	<p>事前準備 : Students must bring a copy of the textbook, dictionary, paper and pens etc. to class.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Family 2. Food 3. Time 4. House and Home 5. Music 6. Transportation 7. Sports 8. Numbers 9. Best friends 10. Television 11. Work 12. Vacation 13. School 14. Movies 15. Money <p>(Office days: Wednesdays and Fridays, by appointment)</p>		
評価基準 評価方法	<p>Grades are based upon: Attendance (students should attend at least two thirds of the classes); classroom exercises and participation; quizzes 60%</p> <p>Tests and reviews 40%</p>		
教科書	<p><i>Topic Talk Second Edition</i>, David Martin, EFL Press</p>		

科目名	体育実技	職名	准教授
		教員名	伴好彦
授業形態	実技	単位数(期間)	1単位(1年後期)
授業の到達目標及びテーマ 授業概要	<p>・授業の到達目標は、「生涯スポーツ」について理解することであり、テーマとして自己の健康を管理するための基礎知識、レクリエーションスポーツ等を取り上げる。</p> <p>・日常生活の中にスポーツを取り入れ、習慣化していくことは、健康の維持増進のために必要であると同時に、精神的にもよい影響を与え、ストレスの解消にもつながる。</p> <p>体育実技では、生涯スポーツにつながるような種目を中心に採り上げ、「楽しく身体を動かすこと」を目標に授業を進めていく。</p> <p>加えて、野外スポーツの一つとしてスキー実習を行う。基礎スキー中心の内容にとらわれることなく様々な形態のスノースポーツを体験し理解を深める。</p>		
授業計画 (オフィス・デイ)	<p>事前準備：体育・スポーツの授業に適した服装・シューズを準備した上で授業に臨むこと</p> <p>1 体力・体型の評価方法 (1) フィジカルフィットネステスト①</p> <p>2 (2) フィジカルフィットネステスト②</p> <p>3 (3) データの評価方法</p> <p>4 体力・健康増進へのアプローチ (1) ながなわ運動</p> <p>5 (2) ストレッチング</p> <p>6 (3) ウォーキング実習①</p> <p>7 (4) ウォーキング実習②</p> <p>8 (5) ウォーキング実習③ データの評価方法</p> <p>9 (6) コーディネーショントレーニング</p> <p>10 スポーツ種目の理論と実際 (1) バレーボール</p> <p>11 (2) バトボン</p> <p>12 (3) テニス</p> <p>13 (4) ディスクスポーツ</p> <p>14 (5) スキー</p> <p>15 (6) スノーボード等</p> <p>(オフィス・デイ：水曜日。時間については要相談。事前にお知らせください)</p>		
評価基準 評価方法	<p>3分の2以上の出席を原則。授業中の活動及び提出物(50%)、レポート(30%)、実技テスト(20%)、うち60%以上の評価を受けた者に単位認定する。(総合的に評価する)</p>		
教科書	<p>教材プリントを講義中に配布</p>		

科目名	体育理論	職名	准教授
		教員名	伴好彦
授業形態	講義	単位数(期間)	1単位(1年後期)
授業の到達目標 及びテーマ 授業概要	<p>・授業の到達目標は、健康の維持・増進に関わる知識を深めることにあり、テーマとして運動処方、基礎、応急処置、正しいダイエット等を取り上げる。</p> <p>・健康の維持・増進には日常的な運動が不可欠との認識が広まって、ウォーキングやテニス等のブームが起これ、またダイエットが盛んになった。</p> <p>しかし健康のためにと行ったことでも、やり方次第では逆に、健康を損なう危険がある。</p> <p>本授業では、正しいダイエットの方法やスポーツをおこなう際の注意点、ケガの応急処置など、健康の維持・増進に関わる知識を深めていくことを目標に進めていく。</p>		
授業計画 (オフィス・デイ)	<p>事前準備：新聞・インターネット等のメディアを通して、関連する事柄についてよくしておくこと</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康の維持・増進に必要な知識とは 2 スポーツ時の水分補給 3 応急処置の基礎知識(1) アイシング 4 応急処置の基礎知識(2) CPR 5 子供の体力と健康 6 竹粗鬆症と運動 7 正しいダイエットの方法(1) 測定データの扱い方 8 運動処方の基礎知識 9 スノースポーツとケガ <p>(オフィス・デイ：水曜日。時間については要相談。事前にお知らせください)</p>		
評価基準 評価方法	<p>3分の2以上の出席を原則。授業中の活動及び提出物(50%)、レポート(50%)、うち60%以上の評価を受けた者に単位認定する。(総合的に評価する)</p>		
教科書	<p>教材プリントを講義中に配布</p>		